

地域で支え支えられる仕組の秘訣をたづねる

大田原市を再度訪問研修

今年度の研修バスツアーは、地域福祉・特に高齢者福祉の先進地区である大田原市社協を五年ぶりに訪ねるもの。

今回の研修には三つの目的を設定。一つには本年四月より施行されている「介護保険法の改定の主旨と概要」、特に「総合事業」という名で地域に下ろされてくる事業の概要の理解、二つには今年より当社協として注力していく「見守り福祉協力員制度の概要と位置づけ」、三つ目が前二者をも包含した先進大田原市の取組の実績を理解すること。



2月17日早朝、総勢39名にて浦ラザ前を出発。テーマ前二者についてはバスの中で当事務局作成資料に従って研修。(このクソマジメさが当社協の特徴)(介護保険法改訂については地区社協だより53号を、見守り福祉協力員については次号参照。)

最も多い年代層(5年括り)が65〜70才となった超高齢社会、そこに生じてくる健康・生活維持・社会との関わり・介護等の諸問題は否応なく我々自身に覆いかぶさってくる。

大田原市は8年前に行政主導で、メインとなる高齢年代層への対策に「地域で助け・支えあえる仕組み作り」に挑戦することを決め、国の先行モデル事業に応募・採用(全国自治体の3%)、3年間の助成金付施策事業に注力、以後更に2年間の助成金付補正事業を経て、現在その定着化を図っている。

自治会・民生委員・地区社協・包括支援センター・老人会等既存組織とは別に、それらの関連する分野を包含する形の「地区別みま

もり隊」を創設(主体は自治会と地区社協)、該当者マップ・支援者選定・ネットワーク化・声掛け・見守り・異常時緊急システム等を一ツツ推進、潤沢な助成金で事務局に有給の専従者を置いてこれらの推進を行ってきたという。共助・ボランティア分野においても、望ましい姿を追求していくには事務局機能の充実化は必須と感じた。

又、足利市が進めようとしている総合事業の地域みまもりシステムも大田原とほぼ同主旨であり、地区社協の見守り福祉協力員制度は更にその入り口である。目的が同じなら大田原の様に既存組織力をフル活用して新システムを構築していくことが望ましいと強く感じた。

河南消防署救急隊、地域への普及に頑張る

この山辺地区でも、日夜サイレンの音が聞えない事がない位

救急車が住民のために活躍されている。このレスキュー部隊の活躍を知る事ができた機会の幾つかを紹介する。

一、ふれあいハイキング隊、河南消防署を訪問。

昨年11月、総勢40名で訪問。



講演する堀江隊員

市内の救急車要請は本署でなくここで一手に受け、出動指令を出しているという。指令室、仮眠室、装備装着待機型等を見学し献身的活動に感謝一入。

二、いきいきサロンでの救急活動紹介と安心キットPR

二月堀一サロンへ、五月には堀二サロンに隊員を迎えて、レスキュー部隊の活躍ぶりを紹介頂き、糸魚川市大火災の教訓と初期消火・防火の重要性等を聞く。又、救急車の現場対応の実際や現場隊員からの要望点、更に救急安心キット活用の重要性についても語って頂いた。近々、中川町サロンでも予定の由。

三、子育てサロンでも乳幼児救急対応について、自身も幼児のママである女性隊員の関口さんが講話。乳幼児が起こし易いケガ・ヤケド・誤飲・誤嚥等についての救急対応について若いママ達は真剣に聴いていた。